

＝市民の声募集中＝

今回も4人の方に市民の声をお願いしました。現在市民の声を募集しています。お問い合わせは広報委員会までお願いします。

議会広報特別委員会 ☎42-6310

子育て特集

市民の声

育児に奮闘中

大柿町 辻 香織



私は今、長女4歳、長男2歳、次女6カ月の育児をしています。里帰り出産を終えて帰る時は不安な気持ちでいっぱいでした。慣れるまでは大変でしたが、朝早くから遅くまで働く夫に変わり、お義父さん、お義母さんのサポートもあり、毎日楽しく賑やかに過ごしています。夫も休みの日には家事・育児を積極的に協力してくれてとても助かっています。

長女が1歳の頃から子育て支援センターを利用してきます。私も子どもも息抜きができ、とても楽しく利用させていただいています。育児をする上で一番大変なのは、3人をお風呂に入れることです。最初は試行錯誤しながら入れていましたが、最近は長女もすっかりして、次女も首がすわり慌ただしくながらも楽しく入浴しています。長女は4歳ですが、妹の面倒を大変よくみてくれ、とても頼りになる小さなお母さんです。



島で子育てして思うこと

江田島町 森中 周子



私は江田島に住んで5年目です。島に来て最初の印象は子育てで忙しい所だと思いました。なぜなら車がないと子ども同士触れ合う場所がないからです。公園に行ってもいつも貸し切り状態。臨時免許を持っていないので、子育て支援センターなど行くこともできませんでした。今は免許を持ち、支援センターや市の行事、サークルに参加するようになり、たくさんママや子どもたちと関わるようになりました。

お互いに子育ての悩みを話し解決したり、ピクニック、みかん狩り、いちご狩りなど友達同士で季節を楽しみ成長させています。時に喧嘩もしますが、子どもたちなりの信頼関係も築けてきています。最初に思っていた印象より子育てはしやすくなってきましたが、やはり私のように不便さを感じているママもいると思います。支援センターに行ってみたいけど車がなく行けない。園庭開

放も月齢が合わないから行けない。そういうことを考えると、室内で遊べる施設がもっと身近にあると嬉しいですね。例えば、公民館の一室にそういうスペースがあると、車がなくても子どもと一緒に足を運ぶ機会にもなるし、他家族との交流の場にもなると思います。と、不便なことばかりでなく、市の行事にはたくさん助けられることも。食育チャレンジ隊は毎月楽しみで参加しています。食に対しての子ども

江田島での4年間の子育て生活

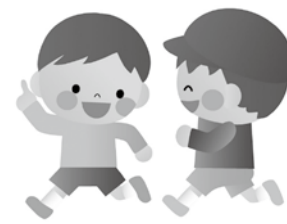
江田島町 關 多恵子



主人の転勤に伴い、初めて江田島を訪れたのは4年前の春のことでした。便利な関東でぬるま湯に浸かりきっていたせいで、江田島での暮らしは初めは正直不便にも感じました。しかし慣れていくうち、むしろ本来必要な生活のメリハリを取り戻せた気がします。何より、海あり山ありの豊かな自然ときれいな空気、静かでのどかな環境は、子育て真っ最中の私たち家族にとって、すばらしい巡り合わせでした。

都会では子どもたちの遊ぶ場所がなくなっていると言われる昨今、わが子にはもともとと大きくなるまでこの豊かな自然の恩恵を受けながら育ってほしかったのですが、このたびまた転勤で江田島を離れることになりました。子育てを通じて、地域の皆さんと本当によく関わらせていただいたからでしょうか、寂しい限りです。子育て支援センターにも本当にお世話になりました。広々として、職員

息子の故郷であり、いつかまた戻って来たい場所です。何年後か、成長した息子と共に、再び江田島市民になれたらいいなと思っています。



「永田川カエル倶楽部」に入って…

能美町 藤原 陽子



皆さん「永田川カエル倶楽部」をご存知でしょうか。能美町鹿川で代表をされている池田さん指導のもと、自然環境の保全・保護を目的にメンバーで地域の川や海の生物観察・清掃活動を行っています。毎月歩道のゴミ拾い、夏は永田川や鹿川湾に入って清掃。ゴミを拾いながら川や海の生物を観察します。永田川にどのような放流、花壇にチューリップの球根を植えたり、昨年は彼岸花の球根も植えました。朝

早く起きて八幡高原の自然観察に参加した時はとても楽しかったです。冬は水が冷たいので川のゴミ拾いは子どもたちはできませんが、代表の池田さんが寒さに負けず頑張っています。年末には池田さん家で餅つきをしました。餅米を釜で蒸し、杵と臼でつき、ついた餅を丸める作業を皆で楽しかったです。ぜんざいやきな粉餅にして美味しくいただきました。そういう貴重な体験が子どもたちによい影響をもたらすと

と一緒に活動することで交流の幅が広がり、その友達に感謝しています。「本当にありがとう。」

